【　日置流竹林派伝系　～　本多流系図　】

【　本多流　宗家四代　】

本多利實（としざね）
（1836～1917）

本多利時（としとき）
（1901～1945）

本多利生（としなり）
（1934～1994）

本多利永（としなが）
（1968～　　）

【　本多流　・　略年表　】

西暦	年号	記　　事	理事長
－	江戸後期	本多利重（流祖利實の父―徳川幕府の旗本、本多家初代利友から 12 代）、日置流竹林派家元の津金新十郎胤保から宗家を継承	
1829	文政 12	本多利重、徳川 11 代将軍家斉の前で大的上覧。	
1836	天保 7	本多利實、利重の長男として誕生。6 歳より弓を習う	
1860	安政 7	25 歳で日置流竹林派皆伝印可	
1869	明治 2	医学校（現東京大学医学部）勤務。後、文部省へ移る	

1889	明治 22	『弓道保存教授及び演説主意（一名「弓矢手引」)』著 神田小川町に弓術練習所を開設。巣鴨村村長に任命	
1892	明治 25	第一高等学校弓道教授に就任	
1900	明治 33	日本体育会弓術部教授に就任。『弓学講義』（長谷部言人筆）	
1902	明治 35	『弓道大意』刊。東京美術学校、東京帝国大学弓術部師範就任	
1905	明治 38	学習院弓術師範就任	
1907	明治 40	『射法正規』著	
1908	明治 41	『日置流竹林派弓術書（東京帝国大学弓術部編)』刊	
1909	明治 42	この頃『弓術講義録（大日本弓術會)』刊	
1917	大正 6	『尾州竹林派弓術書（東京帝国大学弓術部編)』刊 利實、交通事故で逝去。任意団体生弓会発足	
1922	大正 11	生弓会編『竹林射法大意（屋代欽三著)』刊	
1923	大正 12	本多利時、本多流二世を継承（本会発足の起点)。任意団体生弓会解散 利實講述『弓道講義（根矢鹿児編)』刊	
1925	大正 14	社団法人生弓会発足	関谷龍吉
1930	昭和 4	生弓会本部道場を巣鴨庚申塚に建設。翌年道場開き 生弓会編『尾州竹林派弓術書』刊	
1931	昭和 5	生弓会「会報」創刊	
1939	昭和 14	雄山閣『弓道講座』13、14 巻に「中学集講義」上下を利時著	
1940	昭和 15	雄山閣『弓道講座』18 巻に「学校弓道の現況」利時著	
1943	昭和 18	社団法人生弓会を財団法人に改組	関谷龍吉
1945	昭和 20	生弓会本部道場、戦災で焼失。二世利時、逝去	
1949	昭和 24	日本弓道連盟発足（会長に樋口實）	
1952	昭和 27	日本学生弓道連盟発足（初代会長に高木棐～生弓会師範）	
1963	昭和 38	本多利生、本多流三世を継承。活動再開	
1969	昭和 44	藤岡由夫、生弓会の理事長に就任。『会報』復刊	藤岡由夫
1976	昭和 51	『本多流始祖射技解説』（寺嶋廣文著。生弓会発行）	
1977	昭和 52	前田充明、理事長に就任。「弓道の科学的分析」を提唱し推進	前田充明
1989	平成元	柳川覚治、理事長に就任	柳川覚治
1991	平成 3	中央研修会を本格的に開催	
1993	平成 5	生弓会 70 周年記念の中央研修会で利生宗家「明治・大正・昭和の本多流の射手」を講演	
1994	平成 6	三世利生、逝去。本多利永、本多流四世を継承	
1996	平成 8	「本多流勉強会」を立ち上げる	
2002	平成 14	本多利永、本多流四世を襲名披露	
2003	平成 15	生弓会編『本多流弓術書』刊（監修：利永宗家）	
2005	平成 17	遠山耕平、理事長に就任	遠山耕平
2006	平成 18	生弓会編『本多流射礼解説書』刊（監修：利永宗家)。射礼 DVD 発行	
2013	平成 24	公益法人改革により一般財団法人本多流生弓会に改組、同時に四世利永、初の宗家・理事長に就任	本多利永
2014	平成 25	『本多流弓術書』及『本多流射礼解説書』を再刊	
2017	平成 29	利實翁没後 100 年記念射会開催	
2017	平成 29	『朝嵐松風　本多利實伝　弓道本多流史上巻』発刊 （東京大学弓術部・赤門弓友会）	
2019	令和元	『洗心日新　本多流の百年　弓道本多流史下巻』発刊 （東京大学弓術部・赤門弓友会）	
2023	令和 5	明治神宮で創立 100 周年記念射会奉納演武	

（2024. 3）